

< 異文化対処能力についてのアンケート >

氏名 _____

専攻	学年		その他の情報														
			TOEFL		TOEIC		英検		質問 1		質問 2		質問 3		質問 4		質問 5
1	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1	○	1	○
2	○	2	○	2	○	2	○	2	○	2	○	2	○	2	○	2	○
3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○	3	○
4	○	4	○	4	○	4	○	4	○	4	○	4	○	4	○	4	○
5	○	5	○	5	○	5	○	5	○	5	○	5	○	5	○	5	○
6	○	6	○	6	○	6	○	6	○	6	○	6	○	6	○	6	○
7	○	7	○	7	○	7	○	7	○	7	○	7	○	7	○	7	○
8	○			8	○	8	○			8	○	8	○			8	○
9	○			9	○	9	○			9	○	9	○			9	○
10	○			10	○	10	○			10	○	10	○			10	○

以下は、あなたの現在の異文化対処能力についての質問です。最も当てはまるところの○を一つ塗って下さい(鉛筆でもボールペンでもかまいません)。用紙は折り曲げないようにお願いします。「学習中の外国語」については一番時間をかけて学んできたものを一つ選んで答えてください。

< 知識面 = 言語と文化 >

		そうで はない	あまり そうで はない	おおよ そそ である	そうで ある。
1	学習している外国語の基本的なルール(発音、文法、語法)や表現の特徴などを知っている。	○	○	○	○
2	その外国語についての歴史的、社会的、文化的な背景知識を持ち、様々な場面や状況に応じて使い分けが必要なことを知っている。	○	○	○	○
3	その外国語を習得する方法やストラテジー(方略)についての知識があり、そういう習得法は、外国語に対してポジティブな見方ができるほど効果がある(ことを知っている)。	○	○	○	○

4	言語は文化やアイデンティティーと深く関係し、コミュニケーション能力は複合的なものなので、言語能力だけでは十分ではないこと知っている。	○	○	○	○
5	世界には、様々な言語が存在し、さらに、多言語・多文化が接触する様々な状況が、様々な国や地域に存在することを知っている。	○	○	○	○
6	各言語は固有の構造や体系を持ち、言語間で類似点や相違点があり、直訳をしても完全には同じ意味にならないことを知っている。	○	○	○	○
7	それぞれの文化が複雑な価値観や規範を持ち、それが人々の世界観やものの考え方に影響し反映されていることを知っている。	○	○	○	○
8	文化には、地域、世代などの様々なグループによる下位文化があり、人の人が複数の下位文化に属することを知っている。	○	○	○	○
9	異文化間のコミュニケーションでは、同じ行為や現象についても解釈が異なってしまうため、誤解が生じることを知っている。	○	○	○	○
10	文化は固定的なものではなく、接触やグローバル化によって常に変容していることを知っている。	○	○	○	○
11	異文化状況というのは、特に外国に行かなくとも様々な形で身近に存在し、日本にずっと居ても、そういう状況に対処するために異文化に根ざした考え方を学ぶ必要がある(ことを知っている)。	○	○	○	○
12	様々な文化にはその勢力や広がりにかかわらず、常に共通点や相違点があり、文化に優劣はないことを知っている。	○	○	○	○

< 態度面 >

		できな い	あまり できな い	おおよ そでき る	できる
13	異なる言語や文化との共通点・相違点に注目し、それを自然に(当たり前のこととして)把握し受け入れることができる。	○	○	○	○
14	言語や文化の違いに対する抵抗や偏見を捨て、自分とは全く違う考え方も、また理解に苦しむような「中間的な曖昧さ」も受容できる。	○	○	○	○
15	学校教育の場だけでなく、常に他の言語や文化に興味を持ち、異文化コミュニケーションの状況に進んで入っていくことができる。	○	○	○	○
16	全ての言語や文化が同等であるという考え方に立ち、様々な異文化との接触到意義や価値を見出すことができる。	○	○	○	○
17	異文化・多文化状況でのコミュニケーションで出会う障害を乗り越	○	○	○	○

	えるため、自分の立場を説明し、相手の文化を深く理解しようとする問題解決の努力を、根気強く強い意志を持って行うことができる。				
18	自分の文化的価値観に基づく先入観や安易な一般化を排して、自他両方の文化を批判的に見たり、自らの文化と一定の距離を置いた議論をすることができる。	○	○	○	○
19	文化や価値観というものが、もともと相対的なものであるという視点から、自文化と異文化両方について客観的な判断ができる。	○	○	○	○
20	異文化状況に試行錯誤しながら積極的に対応することで培ってきた「柔軟性」によって、新しい状況にも自信と余裕を持って対処することができる。	○	○	○	○
21	異文化を持つ人のアイデンティティーを自分と同等のものとして敬意を持って受け入れ、親密な関係を築くことができる。	○	○	○	○

<考えるスキル面>

22	異なる言語や文化についてそれを構成する要素（＝構成要素）を客観的に観察・把握し、自分なりに分析することができる。	○	○	○	○
23	異なる言語や文化について、その構成要素をカテゴリーやジャンルに基づいて体系的に整理して理解することができる。	○	○	○	○
24	異なる言語や文化について、その構成要素を一貫した手順に基づいて比較し、類似点、相違点をきちんと把握することができる。	○	○	○	○
25	自分の言語や文化について客観的で適切な説明ができ、異文化に対しても、自分の意見や見解を十分に表現できる。	○	○	○	○
26	外国語でのコミュニケーションを学ぶ過程で、過去に習得された言語（母語など）の知識に基づいて、それと外国語の関係についての仮説を自分で立て、比較、検証しながら学習をしていくことができる。	○	○	○	○
27	外国語を使う際に、相手の言語や文化との違いを常に考慮しながら、相互理解に至るコミュニケーションを構築していくことができる。	○	○	○	○
28	異なる言語と文化に対して、これまでに得た知識と経験を活用しつつ、自分なりの学び方を確立していくことができる。	○	○	○	○
29	自分の学び方が効果的かどうかを実践の中で振り返りながら、生涯を通じて外国語や異文化を継続的に学んでいける。	○	○	○	○